



図 21.59 多発性細網組織球腫 (multicentric reticulohistiocytosis)
黄色調の硬い結節，丘疹が手背，指背に多発。

4. benign cephalic histiocytosis

小児に好発し，直径数 mm ～ 1 cm の紅褐色の斑や丘疹，結節が顔面，耳朶，頸部に散発する．病理組織学的に真皮内に単調な単核組織球様細胞の浸潤をみる．浸潤細胞は，CD68 陽性，S-100 蛋白質陰性．通常自然消退し，若年性黄色肉芽腫に包含されると考えられる．

J. 脂肪細胞系腫瘍

脂肪腫 lipoma



全身のどこにでも生じ，単発性または多発性で，大きさは 1 ～ 10 cm と大小種々である．通常は皮下組織に存在し，柔軟で可動性に富む．多くは軟らかく触れる．自覚症状は通常ないが，神経を圧迫すると疼痛を訴えることがある．

一見，正常の脂肪細胞のようだが，腫瘍細胞は薄い結合組織皮膜様で囲まれていることが特徴である．種々の間葉系組織要素が混在し，線維脂肪腫 (fibrolipoma)，血管脂肪腫 (angiolipoma)，筋脂肪腫 (myolipoma) などと呼ばれることもある．脂肪芽細胞 (lipoblastic cell) がみられることもある．いずれも良性の間葉系腫瘍である．

悪性化はきわめてまれであるが，徐々に増大するので必要に応じて外科的切除を行う．

K. 筋組織

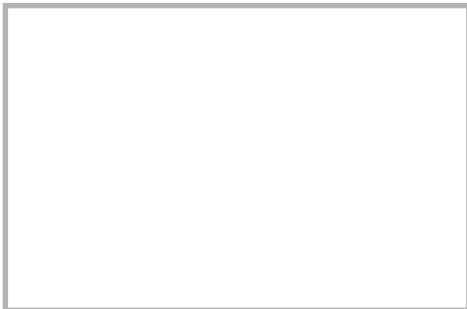


図 21.60 平滑筋腫 (leiomyoma)

平滑筋腫 leiomyoma



皮膚では立毛筋，血管平滑筋，陰部に存在する平滑筋から腫瘍が生じ，それぞれを皮膚平滑筋腫 (cutaneous leiomyoma)，血管平滑筋腫 (angioleiomyoma)，外陰部平滑筋腫 (genital leiomyoma) と呼ぶ．直径 1 cm 程度までの腫瘍が単発 (ときに多発) し，発作性疼痛をきたすことが多い (図 21.60)．なかでも血管平滑筋腫は疼痛が強い．陰嚢に生じたものは無痛性である．本症の悪性型は平滑筋肉腫である．